



みなみおか

第 21 号
2020. 12. 7
発行



12月に入って、1週間がすぎました！

12月は「師走」(しわす)とも言います。普段「師」と呼ばれる人(お坊さんや先生など)は落ち着いてゆっくりしているが、12月は「走」りまわらないといけないぐらい忙しい、という意味だそうです。きっと、あっという間に過ぎ去っていくことでしょう。一日一日を大切に過ごしましょうね。

12月の朝会では、「考える」ってどういうことなのだろうという話をしました。12月に入り6年生一人ひとりにタブレットを渡しました。このタブレット、使い方を間違えると、タブレットに使われるようになるかもしれません。だから、どんなことにもめんどくさがらず、しっかりと向きあい、考える子に育ててほしいと思って、話をしました。今年から新しくなった学習指導要領にも思考力はとても重要だと書いてあります。「考える」と一言で言いますが、脳ではいろいろな操作をしています。例えば、二つの物を比べて違いを見つけたり、似ているところを見つけたりする「比べる」、たくさんの資料などを分けて考える「分類する」、説明をする時にどのように話すと伝わるかという「順序立てる」、書いてあることを簡単にする「要約」、なぜそのような答えになったのか「理由づける」・・・など、20種類以上の操作を脳でしながら、一生懸命考えているのが人間なのです。そのためには、これまで蓄えてきた「知識」を脳の中で取り出してくる作業も必要です。

でも、この複雑なことを「したい!」と思うためには、何より「〇〇について知りたい...という課題を見つけること」や「なぜ、〇〇になるのかなあ...という疑問をもつこと」が大切なのです。

そこで、「きみはどっち?ぼくはこっち!」という1年生児童の算数を使った研究の話をしました。「夏休みにいとこと一緒にプールに行くと、ウォーターライダーがありました。滑りたいと思って行くと長い行列ができていたので、並んで順番を待ちました。スライダーは赤、白、青、黒と4つありました。すると、いとこの方が早く順番が回ってきて先に滑ったのです。そこで、その子は考えました。どうしたら、早く順番が回ってくるのか、いとこよりも先に滑ることができるのかと・・・。並んでいるに人数を数えて、一番少ないところに並んでみてみるといとこの方が早く順



タブレット充電収納庫

番が回ってきた・・・」この先は、子どもたちに聞いてください。最後に、この子は行列にとっても興味を持って、どの列が早く進むか研究を進めていきます。

何事も考えるには必要な情報を持つことや、解決するにはこれまでやってきた学習の中から何を使うか選択するのが大切だと思います。脳でそのような操作をするためには、一つずつ丁寧に学んでいく必要があるのです。授業ではその練習をしているのです。「知識を得る」だけではないのです。よく「もう知ってる。塾でやった」という声を耳にします。「知識を得る」だけではタブレットの記憶と同じになります。みなさんは、「得た知識を使う」人になってください。学校の授業では知っている知識をどのように使うかなど、しっかりと脳を使って更に深く学んでほしいと思っています。

最後に、たくさん考える問題を出しました。校長室前に貼っておきますので、是非挑戦してください。答えは・・・校長室まで届けてくださいね。



タブレットを使って学習している
六年生

作品展



4年生は、都道府県めぐり、廃材を使って作った作品が日本地図の上に並んでいました。よく見ると、竹串を1本ずつ積み上げた屋根、ひもを一本ずつ貼りつけてあるなまはげ...根気強く時間がかかったのだろうとわかる力作を見ると、一人ひとりの努力が見えてきます。こつこつ取り組める力は、「宝」となります。これは何を使っているのだろう?と考えながら見ていると、とても楽しめました。こんなところがあるのなら一度行ってみたいなあ・・・と旅行したい気分になりました。



5年生は運動会で着た法被、迫力がありません。運動会ではじっくり見えなかった作品ですが、改めて見るとものすごい勢いを感じます。きっと、一人ひとりが描いた文字に込められた思いが伝わってくるからだと思います。

法被をながめていると、感動したソーランを思い出しました。運動会での力強い演技、5年生の集団の力のすばらしさを感じます。

各学年、一つずつの作品しか紹介できませんでしたが、1年「ありのふゆじたく」2年「大好きなおべんとう」3年「昆虫大図鑑」4年「大自画像」5年「Myシーサー」6年「南丘オーケストラ」、どれも素晴らしかったです。

南丘小学校のみんなの力に圧倒された作品展になりました。みんな、ありがとう!